

曜日と干支の起源

～平安貴族の日記に曜日が

曜日はいつから

日本人はいつから日月火水木金土という曜日を使っているのでしょうか？明治になってから欧米にならった？鎖国中にオランダ商人がもたらした？戦国時代にやってきた宣教師が伝えた？いやそうではなく、もっともっと古くから曜日は使われていたのです。七曜はヨーロッパから伝わったのではなく、空海（774－835）が9世紀の初めに唐から持ち帰ったもので『宿曜経』という占星書に書かれています。藤原時代には密教行事だけでなく広く貴族間で使われていたようです。藤原道長自筆の日記『御堂関白記』には、長保六年二月十九日（＝1004年3月12日）に藤原道長は84歳の安倍晴明を伴って、新しく作る法華三昧堂の土地探しに木幡（京都府宇治市）に行き、その日は癸酉の日曜日ということが記されています[1]。この日が日曜であることは、実際に計算して確認されます[2]。『御堂関白記』は陰陽師の作った「具注暦」という暦に道長自身が書き込んだもので、そこには干支・二十四節気・吉凶の占いはもちろん、日・月・火・水・木・金・土までが書いてあります。『宿曜経』にはまた白羊（おひつじ）、青牛（おうし）、陰陽（ふたご）、巨蟹（かに）、獅子（しし）、小女（おとめ）、秤量（てんびん）、蝸虫（さそり）、人馬（いて）、磨羯（やぎ）、宝瓶（みずがめ）、雙魚（うお）という十二宮も載っていて、これらを使って宿曜師は星占いをしていたようです。[3]

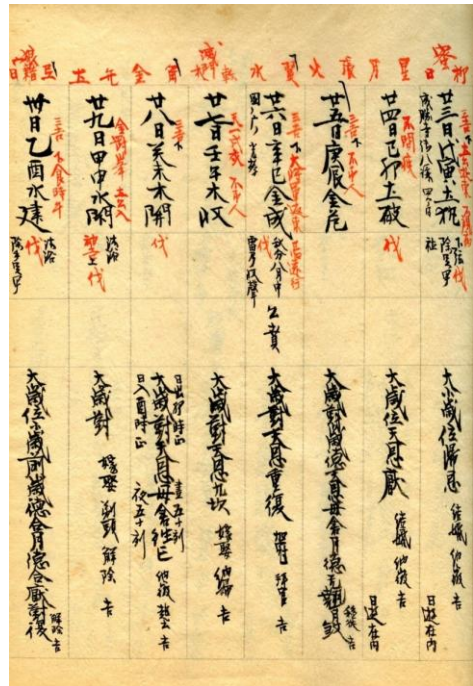


図1 承元四年八月（1210年9月）の具注暦の一部。上段に曜日が朱書されている。（京都大学宇宙物理学教室保管）

鎌倉時代の史料として、承元四年＝1210 年および正和四年＝1315 年の「具注暦」が京都大学宇宙物理学教室図書室で見ることが出来ました(図 1)。日曜日に「密」という字が書かれているのはソグド語のミールに由来するものといわれています。また南北朝時代の康永 4 年＝1345 年の「仮名暦」は栃木県荘厳寺に保存されています[4]。江戸時代にはわが国初の暦を作った渋川春海(1639－1715)の署名のある貞享五年＝1688 年の具注暦、また大和国だけで使われていた文化十年＝1813 年の「南都暦」などがあり[1]、これらに記載されている曜日はすべて現在の曜日に連続しています。

世界各国の曜日名と曜日の順序

英語では日曜・月曜・土曜は天体名、火曜から金曜までは北欧神話の神々の名がつけられています。Tuesday は軍神テュールの日、Wednesday は最高神オーディンの日、Thursday は雷農耕の神トールの日、Friday は美と愛の女神フレイヤの日であり、ドイツ・オランダ・ノルウェー・スウェーデン語など北欧では一般にそうです。一方、フランス・スペイン・イタリア語などラテン系では日曜(主の日)と土曜(安息日)はキリスト教にちなむ名前、他は天体名です。フランス語の lundi, mardi, mercredi, jeudi, vendredi はそれぞれ月ルナ(ダイアナ)、火星マルス、水星メルクリウス(マーキュリ)、木星ジュピター(ゼウス)、金星ビーナスに由来しています。中国やイスラム系諸国(インドネシアからアフリカまで)では一般に 1,2,3・・・と番号が付けられています。またスラブ系ではいろいろな要素が混入されています。すべてに天体名を使っているのはインド・タイ・日本・韓国など東アジア諸国ですが、古代ギリシアがそうである[5] [6] [7] ことは興味深いですね。Helios, Selenes, Areos, Hermeos, Dios, Aphrodites, Kronos は太陽、月、火星、水星、木星、金星、土星の神でありまた天体を表します。

(地図)

曜日がどこで初めて使われたかは定説はないようですが、ヘルニズム時代に当時世界最大の都市アレキサンドリアで天体名で使われ始め、そこから各地に広まったと言われています。西方(ヨーロッパ)ではキリスト教その他さまざまな宗教に影響され、何回か名前が変わりましたが、東方には原型のまま伝わり、東アジアでは今も日・月・惑星の名前がそのまま残っています。中国はかつて日本や朝鮮と同じ天体名を使っていたが(ただしあまり普及しなかった) 20 世紀になってから番号に変えたそうです。曜

日の起こりは聖書の創世記の記述「神は 6 日でこの世を創造し 7 日目は休んだ。」ことによると言われるのは後世の挿話のようです。

日本語	フランス語		英語		中国語	古代ギリシア
日	dimanche	主の日	Sunday	太陽の日	星期日	Helios
月	lundi	月の日	Monday	月の日	星期一	Selenes
火	mardi	火星の日	Tuesday	ティルの日	星期二	Areos
水	mercredi	水星の日	Wednesday	オーディンの日	星期三	Hermeos
木	jeudi	木星の日	Thursday	トールの日	星期四	Dios
金	vendredi	金星の日	Friday	フレイアの日	星期五	Aphrodites
土	samedi	安息日	Saturday	土星の日	星期六	Kronos

さて曜日の順序はどのように決めらえたのでしょうか？ 7 天体の明るい順でも近い順でもなさそうです。これについては 200 年頃、ローマの元老院議員・執政官を勤めたカシウスが著わした『ローマ史』に次のような興味ある記述があるそうです[5]。当時すでに太陽・月・五惑星の遠近の順序は回帰周期から知られていました。その周期は月では約 27 日、土星では約 30 年です。遠い天体ほどゆっくり運動するので周期は長いというわけです。そこで遠い順に「土木火日金水月」と左から書き並べて、24 で改行するということを何回か繰り返して、上から読んでみると、「日月火水木金土」の順になる[5],[6]というわけです。実は 24 でなくても 7 で割って 3 余る数なら何でもよく、最も簡単な数は 10 です(図 3)。実際に試してみてください。

- ・ 土木火日金水月 土木火
- ・ 日金水月 土木火日金水
- ・ 月土木火日金水月 土木
- ・ 火日金水月 土木火日金
- ・ 水月 土木火日金水月 土
- ・ 木火日金水月 土木火日
- ・ 金水月 土木火日金水月
- ・ 土木火日金水月 土木火

干 支

あなたは自分の干支は当然知っていますね、年齢を数ではなくて十二支で言うこともよくあります。十二支の求め方は西暦年を 12 で割った余りが 0 なら申（さる）、1 なら酉（とり）・・・11 なら未（ひつじ）というように求めることができます。

余	十干	十二支	方位	時刻
0	庚 かのえ	申さる		16
1	辛 かのと	酉とり	西	18
2	壬 みずのえ	戌いぬ		20
3	癸 みずのと	亥み		22
4	甲 きのえ	子ね	北	0
5	乙 きのと	丑うし		2
6	丙 ひのえ	寅とら		4
7	丁 ひのと	卯う	東	6
8	戊 つちのえ	辰たつ		8
9	己 つちのと	巳み		10
10		午うま	南	12
11		未ひつじ		14

十干はあまりなじみがありませんが、年を 10 で割った余り、すなわち年の 1 の位の数で決まります。その数が 0 なら庚（かのえ）、1 なら辛（かのと）・・・9 なら己（つちのと）と。戊「つちのえ」と戊「いぬ」、己「つちのと」と巳「へび」の字は間違いやすいのでご注意を。2012 を 10 で割ると余りは 2 だから十干では壬、また 12 で割って 8 余るから十二支では辰、すなわち今年 2012 年の干支は壬辰（みずのえたつ）です。来年 2013 年は干支とも 1 つ進むので癸巳（みずのとみ）となります。干支は 10 と 12 の最小公倍数である 60 を周期として繰り返されます。

中国では干支の使用は非常に古く殷の時代の甲骨文字にも記されています。四書五経にはもちろん、紀元前 11 世紀の青銅器の文字にも干支を読み取ることができます。殷周の戦いは BC1047 年の初冬に始まり、最終戦である牧野（ぼくや）の戦いは「甲子の日」に行われたそうです。それはいつでしょうか？BC1046 年の甲子の日は 1 月 20 日、3 月 21 日・・・と 6 回ありますが、『漢書』の記載では明らかに冬ですから 1 月 20 日が最有力でしょう。さらに武王が天子に就いたのは辛亥の日というから同年 3 月 8 日となります。東アジアの多数の民族が今も使っています。わが国では埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣に「獲加多支鹵（わかたける）大王」と「辛亥年七月」の記載があることから、これは「雄略天皇」時代の「471 年」とする説が有力です。飛鳥時代には公文書に記入されていました。歴史的に有名な事件には、干支がつけられているものが少なくありません。志賀の都が滅びた壬申の乱は 672 年に、清朝滅亡の源となった辛亥革命は 1911 年に起こりました。高校野球のメッカである甲子園球場は 1924 年に作られました。10 で割っても 12 で割っても余りが 1（すなわち 60 で割って余りが 1）である年は辛酉（かのとり:しんゆう）となりますが、この年は重要な始まりの年であると言われていました。辛酉の年には王朝が交代する（辛酉革命）という思想があり、推古天皇九年（601 年）より 1260（ $=60 \times 7 \times 3$ ）年前の辛酉の年である BC660 年が神武天皇即位の年と定められたと言われています。最近の辛酉の年は 1981 年でした。

また 60 年たって干支が戻ってくることを還暦と言い、60 歳の誕生日に赤ん坊に戻ったとして赤いちゃんちゃんこでお祝いしていますが、現在では寿命が延びて 60 歳はまだ元気（生臭い）なので還暦祝いを嫌がる人も少なくないようです。

干支は年だけでなく日にもつけられ、60 日周期で繰り返されます。2012 年 2 月 1 日、4 月 1 日、5 月 31 日、7 月 30 日、9 月 28 日、11 月 27 日は壬辰の年の壬辰の日となります。任意の日の干支は筆者のページ

<http://www.keg.ac.jp/keg/sakka/koyomi/eto.htm> から得られます。改暦のようなことはなく、太古から連続しているので、上記のように干支から年

月日を求めることができるのです。

十二支は方位を表す時にも使われます。子丑寅・・・亥を時計回りに環状に並べ北を子、東を卯、南を午、西を酉の方位としました。それらの中間の北東は艮（うしとら）、南東は巽（たつみ）、南西は坤（ひつじさる）、北西は乾（いぬい）です。乾御門は実際に御所の北西にあるし、「わが庵は都の巽しかぞ棲む・・・」という『百人一首』の喜撰法師の歌は都の東南である宇治に住んでいることを表しています。地球面で北極南極を結ぶ線また天球面上で天頂天の北極南極を結ぶ線を「子午線」と言っています。また時刻表記にも使われ、丑の刻とは1時から3時までの2時間です。それを丑の一刻、丑の二刻、丑の三刻（丑の正刻）、丑の四刻と分けるので「丑三つどき」とは2時ころです。ただし時刻ではなく2時から2時半までの時間という説もあるそうです。午前、正午、午後は言うまでもなく午の正刻を基準にしています。十二獣は国によって多少違ってきます。特に多くに国で亥は豚だそうです。

十干は五行説に由来し、5元素、木（もく、き）・火（か、ひ）・土（と、つち）・金（こん、か）・水（すい、みず）を兄（え）と弟（と）に分けて10種としました。

「甲（きのえ）」は「木の兄」、「乙（きのと）」は「木の弟」のことです。現在ではものの階級・等級・種類・成績を示すとき、また契約書などにおける両者の名称として使われています。優劣がつけにくい時「甲乙つけがたい」という慣用句がありますね。

曜日・干支の計算

ほとんどの人が自分の干支は知っていても、生まれた日が何曜日かは知りません。曜日は7を周期として繰り返すのだから簡単な計算で求まります。Excelで曜日を求める時には「有効なのは1900年3月1日以降であること。1899年12月31日以前では全く無効で、1900年は閏年として扱われていて1月と2月は曜日が1つずれている。」ことにご注意。

19世紀以前の曜日を求めるには、割算の余りを計算する必要があります。まず1900年1月1日（月曜）を第1日としてyy年mm月dd日までの通日Tを

$$T=[365.25*yy]-[yy/100]+[yy/400]+[30.59*(mm-2)]+dd-693931$$

で定義します。ただし[]は切り捨て整数化の記号で、また1月と2月は前年の13月、14月とします。そおすればTを7で割った余りが0なら日曜

日, 1 なら月曜日, . . . , なら土曜日となります。

筆者のページでは任意の日の曜日と干支が表示されます (図 5)。インターネットエクスプローラで

<http://www.kcg.ac.jp/kcg/sakka/koyomi/eto.htm> を開きます

eto - Windows Internet Explorer

http://www.kcg.ac.jp/kcg/sakka/koyomi/eto.htm

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

Google 検索

お気に入り JPL Space Gallery 小さな資料室 コンピュータ博物館:分數コン... おすすめサイト HotMailの無料サービス 本日のおすすめアドオン...

eto

十干 十二支 戻る

2012 年の 干支は 壬(みずのえ)辰(たつ)

1 月 1 日の 干支は で 曜日

JST9:00の修正ユリウス日(MJD)は 太陽黄経は 度です。

今年2012年の干支は壬(みずのえ)辰(たつ)で、本日2月12日(日)は癸(みずのと)卯(う)の日です。

1582年10月15日以降有効 それより前はユリウス⇒グレゴリオ暦値に変換して入力してください。

-暦変換-

Gregorian 1582 年 10 月 14 日は 変換 Julian 年 月 日。

Julian BC AD 1582 年 10 月 5 日は 変換 Gregorian 年 月 日。

夏の土用は太陽黄経が 117° ~135° となる期間で、2008年,2009年,2011年は丑の日が2回あります。

ページが表示されました 信頼済みサイト 100%

第1行

最初のテキストボックスには起動したときの年が自動的に入力され、次のテキストボックスにその年の干支が表示されている。任意の年を入力し、ボタン「干支は」をクリックするとその年の干支が表示される。

第2行・第3行

1 番目 2 番目のテキストボックスには起動したときに 1 と 1 が入力されているが任意の月日が入力できる。ボタン「干支は」をクリックすると次のテキストボックスにその日の干支が、次のテキストボックスには曜日が表示される。さらに第3行の2つのテキストボックスには午前9時(世界時0時)における修正ユリウス日(1857年11月17日世界時0時0分からの通日)と太陽黄経が表示される。間違っても6月31日と入力しても自動的に7月1日に変換してくれる。

入力する年月日はグレゴリオ暦値であり、1582年10月15日以降有効である。それより前はユリウス暦値⇒グレゴリオ暦値に変換して入力する。下半分はユリウス暦とグレゴリオ暦との変換である。ピンクの変換ボタンをクリックすれば、計算して変換された日が後のテキストボックスに表示される。

